

平成25年度第3回向日市総合計画等外部評価委員会

議事要点録

○ 日 時 平成26年2月13日（木）午後2時45分から午後4時35分まで

○ 場 所 向日市役所大会議室

○ 出席者 （委員）中村委員、齋藤委員、香本委員、原田委員
（説明員）

重点施策	担当部局		出席者	
中心市街地における商業の活性化	建設産業部	都市計画課	巖嶋主幹	—
		道路整備課	福岡課長	
		産業振興課	土井課長 谷口係長	藤田主幹
市民文化の振興	市民生活部	市民参画課	清水次長	八木課長補佐

（事務局）水上市長公室次長兼秘書広報課長、
野田企画調整課長、長谷川課長補佐、山田主任、上野主査

○ 傍聴者 1名

○ 内 容

（1）重点施策評価

- ① 中心市街地における商業の活性化
- ② 市民文化の振興

【意見の要旨】

① 中心市街地における商業の活性化

担当者：【施策の概要について説明】

委員：空き店舗を使った「農・商・工・観光連携事業」において、実際に起業された数などは把握しているか。

担当者：把握していない。

委員：平成24年度の国・府支出金は何か。

担当者：緊急雇用創出事業を活用して空き店舗を利用した商業ビジネスの活用に取り組んだものである。阪急東向日駅からJR向日町駅間には空き店舗がなかったことから、向日神社参道前の商店街で空き店舗を活用して事業を行った。

委員：「観光・グルメお土産マップ」はどこで配布しているのか。

担当者：市内公共施設や京都駅の観光案内所「京ナビ」などで配布している。

委員：まちづくり協議会において、行政への批判等があるのか。

担当者：協議会に行政が参加した場合、議論の中心が行政への要望となり、まちづくり計画作成の議論となりづらくなる。まちづくりについては行政の支援は必要であるが、市民自らで行っていただきたいと考えている。そのため、協議会事務局は会議の場に極力行政を招かないようにすることで、自らの活発な議論を行えるようにしておられる。

委員：ゲートタウン協議会は行政が発足させたのか。

担当者：「えきえきストリート」が中心となって発足された。

委員：電線の地中化は今後の取組として考えておられるか。

担当者：電線の地中化には一定の歩道幅が必要となるなど、様々なハードルがあり、計画的に取り組んでいかなければならないが、かなり難しい状況である。

委員：地下を掘るにはかなりの費用がかかることから、国からの補助金等がなければ電力会社は実施しない。

委員：プレミアム商品券は今後イオンモールの店舗でも使用できるようにしていくのか。

担当者：モール内のいくつかの店舗が向日市商工会に加入されるのかも含め、今後議論していく必要があると聞いている。

委員：プレミアム商品券が使える店舗はどの程度か。

担当者：参加店舗は184店舗であり、実際に使用されたのは142店舗である。

委員：今後も継続して実施していくのか。

担当者：会員にも好評であり、商工会からは、今後も続けていきたいと聞いている。

委員：イオン開業の影響などの調査はされているのか。10月に向け、調査が必要ではないか。

担当者：交通についてはイオンが調査を行っているが、結果はまだ示されていない。

委員：KARA-1の参加見込み数はどの程度か。

担当者：天候にもよるが、晴れれば昨年並みの5万人が予想される。

【判定】

- ① 実施手法 : 委員全員 A
- ② 進行状況 : 委員全員 A

付帯意見：都市基盤整備は順調であり評価できる。今後の中心市街地活性化をイオン開業の影響について検討、考慮しながら進めていただきたい。

② 市民文化の振興

担当者：【施策の概要について説明】

委員：文化政策会議とは何か。

担当者：文化創造プランの策定及び改定のために設置しているものである。

委員：定期的に行うものではなく、プランを作成するために行っているのか。

担当者：プランの進行管理にも活用していきたい。

委員：文化に対する市のスタンスはどのようなものであるか。

担当者：文化を創造するのは市民であり、市民の皆様が様々な文化に触れ、主体的に文化活動に参加できるよう、その環境づくりに努めることが市としての役割である。

委員：文化に関する市民アンケート調査結果を受けて行っていることは何か。

担当者：発掘したものの公開や市内ウォークラリー等を行い、文化に触れていただく機会を提供している。

【判定】

① 実施手法 : 委員全員 A

② 進行状況 : 委員全員 A

付帯意見：取組は評価できる。今後、情報発信の手法や子どもの参画促進に力を入れていただきたい。